

平成5年度資源管理型漁業推進総合対策事業(地域重要資源) 川内地区(トゲクリガニ) (要約)

塩垣 優・吉田 達¹⁾

本事業に係る詳細は「資源管理型漁業推進総合対策事業(地域重要資源)・川内地区、トゲクリガニ」青森県(平成6年3月)として報告済みである。

1. 漁獲統計調査

平成5年度漁期の川内町漁協における漁獲量の統計資料を整理した。

平成5年度の、同漁協における漁獲量は9.46トンと過去7ケ年間の最低を記録した。

2. 標本船調査

10隻の標本船による操業記録によれば、トゲクリガニの操業日数及び漁獲量は、それぞれ11~67日、90.3~2,581kgと著しい個人差が認められた。また、操業漁場は時期、雌雄別に様相を異にしており、12~3月には宿野辺沖、戸沢沖の比較的浅い陸側の岩礁地帯が雄の主漁場であり、一方、雌は川内港沖合の水深20~30mの砂泥域が主漁場であり、時期も3~6月と雄よりも遅くなっていた。

3. 市場調査

市場に水揚げされたトゲクリガニのうちから雌雄各100個体ずつ、月2回の測定を行い、年齢別全甲長の推定資料を得た。測定個体数は雄662、雌807の合計1,469であった。しかし、解析するにはデータが不足であり、全甲長頻度分布から明確な年級群の分離はできなかった。

漁獲物の雌雄別、銘柄別の全甲長組成、重量組成、銘柄別単価の推移を明らかにした。

4. 回遊移動調査

終漁期に漁獲された水ガニ276個体に標識(側棘の根本に穿孔し、そこにディスクをビニールチューブで結着)を付して標識放流試験を行った。

平成5年4月28日、川内港沖合水深29m地点で放流したもののうち、再捕がみられたのは12月17日から翌年4月29日までの間に雌雄ともに28個体で、再捕率は雌で17.3%、雄で24.6%であった。再捕時期並びに再捕漁場は、ともに雌雄による著しい差異が認められた。すなわち、雄では放流場所から全て陸岸よりに広範囲に移動しており、再捕時期も12~3月までの間であるのに反し、雌では放流場所からほとんど移動せず、再捕時期も4月以降に集中していた。

(詳細は本誌「トゲクリガニ標識放流試験」を参照されたい。)

1) むつ地方水産業改良普及所